

12月16日 西山連峰縦走 (1)

平尾 繁和

| | | | |
|-----|---|-----|--------|
| 山名 | 西山連峰縦走 (1) | 山行名 | 個人山行 |
| ルート | 老ノ坂バス停～大枝山～西山団地～大暑山～小塩山～大原野森林公園～ポンポン山～釈迦岳～善峯寺～灰方バス停 | | |
| 山行日 | 2020年12月16日 (水) | 天候 | 晴れのち曇り |
| 参加者 | CL:平尾、SL:廣瀬、伊藤多、木田、玉置、西川洋、山下隆 /7名 | | |

| | | | | | |
|--------|---|--------|-------|---------|---------|
| ルート | 概略 | コースタイム | | | |
| | | 地名 | 時:分 | 地名 | 時:分 |
| 京都駅 |  | 発 | 7:21 | 大原野森林公園 | 着 11:50 |
| | | 着 | 8:07 | 着 | 12:25 |
| 老ノ坂バス停 | | 発 | 8:09 | ポンポン山 | 着 14:22 |
| | | 着 | 8:09 | 発 | 14:35 |
| 西山団地 | | 着 | 9:25 | 釈迦岳 | 着 14:00 |
| | | 発 | 9:25 | | 発 14:05 |
| 大暑山 | | 着 | 10:00 | 善峯寺 | 着 16:28 |
| | | 発 | 10:05 | | 発 16:30 |
| 小塩山 | | 着 | 10:55 | 灰方バス停 | 着 17:20 |
| | | 発 | 10:57 | | 発 17:29 |

天気予報では週明けから寒気が南下し日本海側では大雪で、京都市内へも雪雲が流れこむとか。京都駅前から京阪京都交通バス亀岡駅南口行に乗る。乗客は少なく比較的空いていた。老ノ坂バス停で下車、トンネル手前で左手に入る。源頼光が酒呑童子の首を埋めたといわれる首塚大明神の手前で準備体操、右手ゲート脇を抜け途中から左手の山にとりつく。落葉をふみ急な尾根筋を登る。鉄塔からは段を切った地図にない道を登りNTT無線中継所につく。ここが大枝山ともいわれている。回り込み林道にでると陽光を浴びて輝くススキ越しに展望が開けてくる。左手の木立の間から薄っすら雪化粧の愛宕山や京都市街が見える。標高400mの西山団地の周りを抜けていく。山道に入ると凍った所があった。大暑山三角点まで往復する。途中カタクリ保護地をフェンスの外から見る。電波塔が5基林立する小塩山、山頂三角点は周りの木が倒れ右手に淳奈天皇陵が盛り上がり山頂らしからぬ場所で想像外であった。分岐まで引き返し大原野森林公園をめざし下る。鉄塔にでると大きく展望が開け陽もさんさんとさしてきた。予定より10分早く森の案内所に到着。シャッターを上げてトイレを使い、西尾根ルートの入口付近の日当たりのいいススキの間で昼食。午後は西尾根ルートからポンポン山をめざす。ゆるやかなアップダウンをくりかえし高度を上げる。ツツジの丘をすぎ、雑木林の気持ちのいい広い頂稜部で休憩。リョウブの丘をへてポンポン山につく。誰もいなくて頂上を独り占め、生駒山、鷲峰山、東山連峰、比叡山、愛宕山と大展望を楽しむ。三上山の奥には鈴鹿の山並みが見られた。名残惜しいが先へすすむ。釈迦岳を通過、分岐から急な下りに入る。善峯寺が樹の間越しに見えると谷の残り紅葉が楽しめた。タカノツメの落葉のカaramelのような甘い匂いやウリハダカエデの紅黄葉の落葉もありリスも3回見かけた。出会った登山者は3人、風は冷たかったが雑木林の落葉道の陽だまりハイクという初冬の静かな山行だった。予定より30分遅れで善峯寺に到着、当初の予定どおり灰方バス停まで標高差250mほど舗装路を下る。無人販売所でお土産の野菜を買い阪急バスにのった。歩数は4万歩近く、みなさんお疲れさまでした。

ヤママップ記録 9時間09分、18.3km、上り1,057m/下り1,205m

ヒヤリハット なし



N T T 無線中継所 (大枝山)



西山団地へ向かう



大暑山山頂 (586m)



小塩山 カタクリ保護



小塩山山頂 (642m)



鉄塔から北を眺める



森林公園に向かう途中



大原野森林公園



(山下さん撮影)



ツツジの丘



リョウブの丘



(山下さん撮影)



西尾根ルート リョウブの丘手前の広い頂稜部



ポンポン山山頂 (679m)



釈迦岳山頂 (631m)



善峯寺前に到着

西山連峰縦走 感想

伊藤多恵子

龍門山でポカポカ陽気のハイキングをしてから、一週間もたたないうちに天気が一変。16日は、近畿でもあちこちで大雪が降るほどの寒気に襲われました。ひょっとして中止かな…と何度もPCを開いてみるけど連絡はない。予定通り実施となって喜んで参加しました。

確かに、快晴の下でのハイキングは文句なしに気分がいい。でも、雨も風も雪も自然のうち。色々な日を体験できるのも味わい深い。そもそも12月に参加しやすい例会を企画してもらっていることが有難いですから。行きのバスから見えた愛宕山はうっすらと雪化粧していました。冬枯れの里山、特にすっかり葉を落とした木々の立ち並ぶ稜線歩きは好きです。

午後になるとすぐに日差しが長くなり、木の幹が黒い影を長く落として模様を描く中、照葉樹の葉っぱや地面の枯れ葉さえも光を受けて輝いています。リョウブの丘の手前、広々とした台地が静かに冬の光を受けていたのが心に残りました。リスも二匹見ましたし、オトシブミも拾いました。ところで、一山下って居住地域を抜ける途中、閉じられた門扉が現れました。みんな次々に乗り越えていく中、私一人、門にまたがったまま身動きが取れなくなりました。「あ、難儀している、オモロいなあ〜」と思っている人もいる中、Kさんがひょいとかかえあげて降ろしてくれました。アッと思う間もなく、一瞬の早業でした。Kさん、力持ち！それに、敬老精神を發揮？寒さに震えることの多かった山歩きでしたが、次々に小山を越えて行くのは楽しかったです。ところどころに「熊出没注意」の看板が出ている中、後ろの方で、「寒い、寒い」「怖い、怖い」の声が途切れることなく続いて、いい熊除けになっていました。9時間を超える行動時間に18キロ余りの歩行距離。疲れたけど、充実した一日でした。

山下 隆

今シーズン初めての大寒波襲来のしかも平日、いずれの参加者も家族から「こんな寒いのに行くの？」と聞かれても、それには耳もかさずに出てきたに違いない7人が夜明けの京都駅バス停に集まる。知らない方から見れば理解しがたい行動と映ったに間違いなしだ。冬枯れの木々の合間からの景色を楽しみに、落ち葉や霜柱を踏みしめたり、人と会うこともない貸し切りの山にはキットいいことがあるに違いないと思いつつ参加した。今日の山行は17kmの長距離との案内ゆえ、自分の体力のチェックにもなるし、今年最後の山歩きは来年の山行占いの意味もあった。

登山口は「老の坂」とあり、ビックリ。今日の仲間は50代の若手一人を除き、60～80代の仲間は老いに若干抵抗しつつ元気にこの「老の坂」を登り始めた。妙な感覚だ。誰がこんな名前を付けたのか！！この坂道を登り切れればまだまだ老いているとは言えないぞという励ましの坂か？番犬が盛んに我らを励ましてくれた。京都と京都北部の境目の峠でさぞかし、歴史にもまれた人々が行き来した峠だったに違いない。

期待通りの楽しい場面は沢山あったが、一番気にいったのは青空をバックにしたリョウブ林だった。花の時期はさぞかしだろうに。「森の案内所」下で風をよけてのススキに囲まれての昼食場所の雰囲気。久しぶりにポンポン山での大展望に出会えた。我が家の近くもはっきり見えた。いつも人であふれていたここは山中と同じく貸し切りだった。

一方、減点も沢山あった。凍った斜面で滑った勢いでストックを折ったり、落ち葉の下に隠れた小石のおかげで経験したことのない痛い尻餅をつくし、しばらくご無沙汰だったツリにしばしば見舞われたりと。芍薬甘草湯の在庫も切らしてしまい、翌日直ぐ補充した。ツリには十分注意はしていたがまだまだ準備不足で反省だ！久しぶりの18km・3.3万歩は応えたようだった。今後はさぼり勝ちだった「山筋ゴーゴー体操」に励み、来年も楽しい山歩きをしたいと思う山行でした。

CLのしっかりした道案内で迷うこともなく、又、仲間にはいろいろ助けていただき、感謝の山行でした。